

景況レポート

(12月分・情報連絡員80名)

DI値は前月を下回るものの、好調を維持

【概況】12月分の県内景況は、前年同月と比較して、景況が「好転」したとする向きが27.5%(前月調査26.6%)、「悪化」が28.8%(同25.3%)で、業界全体のDI値は-1.3となり、前月調査と比較して2.6ポイント下回った。

内訳として、製造業全体のDI値は-9.4で前月調査と比較して6.7ポイント上回った。非製造業全体のDI値は、4.2で前月調査と比較して8.3ポイント下回った。

引き続き、消費税増税前の駆け込み需要を控えた民間投資や一般建築、新車販売等が活発で、関連業界の売上は好調であり、そうでない業界との二極化が見られる。また、観光関連では、秋田DCの効果があまり感じられないとの声があった。

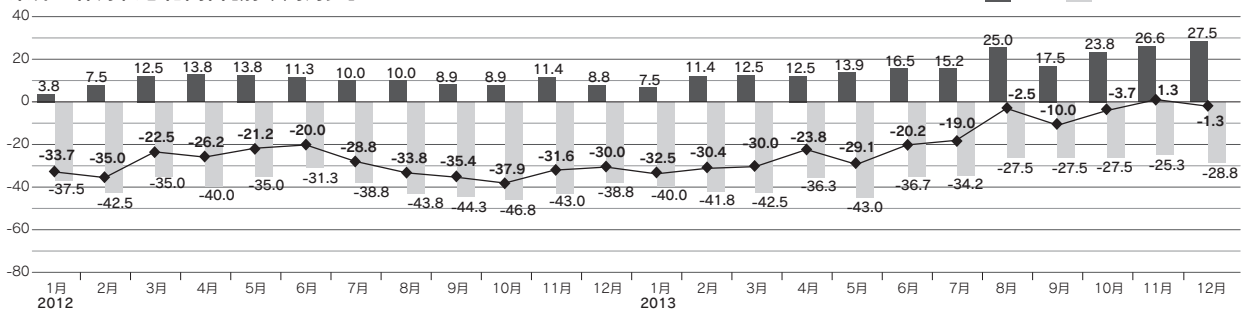
全体の景況感は、公共投資の増加や消費税増税前の駆け込み需要によって、8月以降は比較的好調に推移しているが、原材料等コスト上昇分の吸収が困難との声が聞かれ、売上に比較して、収益状況や資金繰りはやや低調に推移している。(回答数：80名 回答率：100%)

項目	業界の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製造業	☁	☁	☁	☔	☔	☔
非製造業	☁	☁	☁	☀	☁	☁

【凡例】
 ☀ 快晴 30以上
 ☁ 晴れ 10以上 30未満
 ☁ 曇り △10以上 △30未満
 ☔ 雨 △10未満 △30未満
 ☔ 雷雨 △30以下
 【天気図の見方】
 前年同月のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index (ディフュージョン・インデックス) の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

業界全体好転悪化割合[前年同月比]



業界の声

パン製造	セブンイレブンの進出により売上が落ち込んでいる。また、原材料の値上がり分を製品価格に転嫁できず、苦しい状況。
繊維製品	年末の商品の動きが悪く、消費税増税前の駆け込み需要が感じられない。
木材・木製品	製品の販売価格が小刻みに値上がりしているが、原木の値上がり分を吸収できず、採算分岐点に届かない、増収減益の状況が続いている。
外材	住宅建築需要は、木材利用ポイント制度や消費税増税前の駆け込み需要から、依然として勢いが続いており、国産材製品が品薄で価格が高騰しているため、外材製品に対する期待も強まっている。なお、外材丸太市場は、円安ドル高傾向で難しい局面にある。
生コンクリート	12月の出荷数量は前年同月比110%台、4月から12月までの累計では前年比108%前後と想定される。震災復興により骨材需給もタイトな状況が続いている。その影響で原材料費が高騰しているため、取引先からもある程度理解が得られ、各地区で生コンの値上げが浸透しつつある。
機械金属	各社とも2月頃まで受注を確保しており、取引条件が、前年同月よりもやや好転した。
自動車販売	12月の新車販売台数は、登録自動車が1,928台(前年同月比122.6%)、軽自動車が2,116台(同146.0%)で、合計4,044台(同133.9%)であった。年間では、登録自動車が26,757台(96.6%)、軽自動車が28,752台(109.0%)、総計55,509台(102.6%)となっている。
石油販売	ガソリン1ℓあたり158円20銭で前月比1円30銭の低下、軽油1ℓあたり142円で前月比20銭の上昇、配達灯油は18ℓで1,897円と前月比31円の上昇となっており、今後、灯油価格の高止まりが予想される。
タクシー	12月の速報値では、運行回数、運送収入共に前年同月を下回っているが、乗務員の減少により一人当たりの運送収入がやや増加となっている地域もある。なお、秋田DCの効果は感じられないという声が多い。
電気工事	消費税増税前の駆け込み需要で、住宅建築にかかる工事の受注件数が増加しているが、相変わらずの電気工不足で、工期の遅れが見受けられる。